

## ～気になる石碑～

記武多グスク周辺へ散策やウォーキングに出かけるといふ方や、グスク側の道が自家用車通勤（通学）コースとなつている方などはこの石碑を見かけたことがあると思います。

「タンバラ按司っていったい……どの誰なの？」

町史だよりで以前津記武多ガールを紹介したときに津記武多と幸地グスクとの次のようなお話をしましたね。

津記武多グスクの城主すなわち津記武多按司は、妻にいたずらをした幸地グスクの城主熱田子（アツタシ）を攻めようとするが反対に滅ぼされてしまう。津記武多は今帰仁按司と親しい関係にあつて、津記武多按司の死後、今帰仁から軍勢が派兵されたが熱田子の策略で返り討ちにあつた。

『西原町史』の考古編では幸地按司墓と伝承のある古墓についての記載があります。それではこの津記武多グスクにあるタンバラ按司墓と津記武多グスクとは関係があるのでしょうか？

この墓の石碑を仕立てられた与那城キヨさんのお話によると、この墓（神墓といっている）は津記武多の按司の墓であり、今帰仁の分かれである自分達の東下庫理（アガリシヤクイ）一門で拜んでいるとのこと。

ほかに小波津の上月門中も津記武多按司の後裔といわれ以前は津記武多にある按司墓を拜んでいたようです。

また内間の糸数門中も津記武多按司と姻戚関係にあり戦後までその按司墓に参拝していたといえます（宗家は沖縄戦で一家全滅）。上月・糸数門中については民俗編にも記述があります。

でもこの按司墓がなぜタンバラと呼ばれるのかについては分かっていません。東下庫理でも先代からそう呼ぶ



▷東下庫理の神屋内部

で拜んでいたといえます。

このタンバラ按司墓や幸地按司墓もそうですが、墓室内の調査が実施されたことがないため、伝承の真偽は定かではありません。しかし、関係する方々がマクトウマクトウ（真々・純粹）の気持ちで崇拝しているという姿を見ていると、やはりこちらもマクトウに調査しなくては……と思うのです。

そう、なんとたつてタンバラの名称や関係する門中の人々などまだまだナゾは多いんですもの。

町民のみならず、暑い日が続いておりますがお元気でしようか？  
突然ですがみなさん、小波津の津記武多グスクのふもとに「タンバラ按司墓」という石碑があるのをご存じですか？  
緑の多い津



△津記武多グスクにある按司墓

さらに今帰仁から攻め入りついに幸地グスクの熱田子も滅ぼされる（『球陽』外巻「遺老説伝」）。